



志津南 news

志津南ホームページ
http://shizu373.net

志津南学区の人口 (10/31 現在)
世帯数 2,228 総人口 6,168 人
発行
志津南学区まちづくり協議会
Tel(fax) 077-507-6496
E-mail shizuminamimachi@gmail.com

立命館大学

「出あいプロジェクト」

～まちあるき～

普段、南草津駅からキャンパスまでの道を行ったり来たり生活。キャンパス内部や周辺のお店のことは大抵わかるけれどもその町の事に関しては良くは知らないことに気が付き、まちあるきに参加しました。

当初は少なからず私と同様に思っている学生もいるのではないかと期待していましたが、説明会の時に、参加者はスクールガードに参加する1名とまちあるきに参加する私だけであったことは驚きでした。

当日は、引率の人を含めた5名で活動。統一した緑化活動に地域の人が協力していること、絆カフェを運営していること、参加者の住まう地域周辺の活動のことなど様々なことについて聞いたり、話し合ったりしました。それらのどれも大変興味深く、考えさせられました。

この日が、如何に地域の人たちのおかげで気持ちの良い生活が出来ているのかを再認識した日であったことは間違いありません。

この活動に参加したことは私にとってとても良い事であったと思うし、これからこのような活動があれば積極的に参加していきたいと考えています。

(理工学部電気電子工学科3回生 岡田優人)

志津南市民センターは、11月26日に一斉清掃・消防訓練を行いました。まず湖南消防・南消防署



市民センターで消防訓練

の指導のもと、市民センター調理室からの出火を想定し、通報と避難の方法を的確かつ迅速に行えるよう訓練をしました。駐車場に避難した後、訓練用消火器を使用し、火災時の消火器の操作を学びました。その後、館内の一斉清掃を行い、同センターを利用するサークルや地域団体の皆で協力し、日ごろの届かない隅々まで、丁寧に清掃しました。ご参加いただいた皆さんお疲れ様でした。

公共交通網でワークショップ

住民から意見や課題指摘相次ぐ

面的な公共交通ネットワーク整備に向け、滋賀県がスタートさせた「大津湖南エリア地域公共交通活性化

協議会」(事務局・滋賀県)の第1回ワークショップが10月30日、志津南市民センターで開かれ、住民18人が参加しました。

写真。

事務局から地域の公共交通に関し「高齢化、

移動手段の推移、鉄道・バス利用状況」などの現状について説明があったあと、平安女学院大学国際観光学部の井上准教授が「地域の公共交通の現状と必要性について」と題し講演。この中で、井上准教授は「地域の皆さんの意識次第で地域



大津湖南エリア地域公共交通活性化協議会
滋賀県が「コンパクトネットワーク」をキーワードに、面的な公共交通ネットワークの再構築に向け設置したもので、県が事務局

かがやき通りの追分南五丁目一番地の三差路に新たに防犯カメラが設置されま



追分南三差路に防犯カメラ

の公共交通は変わる」などと話し、地域公共交通網構築の必要性を訴えました。講演のあと、6人1組の3グループに分かれ、「移動に関する地域の困りごと」について意見を出し合いました。

この結果、出された数多くの意見や要望を整理し、各グループの発表者が発表、他のグループの人との質疑応答が行われました。最後に井上准教授が内容について講評、ワークショップを締めくくりました。

第2回ワークショップは12月18日(日)に開催される予定で、今回の意見交換を踏まえて、より具体的な話し合いを行うことになっています。回覧でお知らせしますので、ご参加ください。

した。写真。平成28年度の草津市の防犯カメラ一台と防犯灯一灯の補助金申請について、交通防犯委員会(堀切あつ子委員長)で協議した結果、交通量も

多く通学路でもある同所が選ばれました。11月22日設置工事を終え、12月1日から運用を開始します。また、防犯灯については、追分南二丁目のコーシーカーデンの入り口付近に設置することにし、2月頃には工事が行われます。

趣味悠々

書 「知良致」

縦 34.5センチ

横 90センチ

制作 中野 操=若草2丁目



スポーツの秋を楽しむ

志津南区体育振興委員会(仮家稔委員長)は11月23日、チャレンスポーツデーを開催しました。午前9時からウォーキング。志津南小学校をスタート、牟礼山遊歩道を登り松ヶ丘、青山区経由、伯母川沿いまで約6キロ2時間30分

歩きました。スタート時は、曇天でしたが、色とりどりに紅葉した山道を登り、頂上に到着する頃には青空がのぞき、琵琶湖まで一望できる絶景。老若男女177人、和気あいあいと楽しくウォーキングできました。午後1時からは、町内対抗のディスプレイ大会に90人が参加しました。写真。初めての人から、経験者まで、大人チームも小学生チームも白熱した戦いが繰り広げられました。天候にも恵まれ、スポーツの秋を楽しみました。町内対抗の成績は次の通りです。

大人の部

- 優勝 岡本西
- 2位 若草3丁目
- 3位 コージーカーデン

小学生の部

- 優勝 若草2・3丁目 合同チーム
- 2位 かがやきの丘B
- 3位 岡本西

健康講座 血管の老化予防



講師には、学区内で内科クリニックを開業、高穂中学校と玉川高校の校医、第二菟浦の郷の配置医として地域医療に尽力されている浅野信行院長を招き、「高齢者にみられる血管の老化現象」について講演いただき、この予防には日頃から①運動、②自分で毎朝血圧を測る、③塩分を控えることを学びました。参加者16人は身近な問題でもあり、熱心に耳を傾け原因と予防方法に理解を深めました。

錦秋の秋満喫



追分南町内会の「元気づけらぶ」は11月7日参加者37人で、びわ湖バレイ山頂の天空のテラスにバスで出かけました。当日は秋晴れで見通しが良く、びわ湖バレイの山頂から眼下のびわ湖の絶景に参加者は見とれていました。その後、山頂のレストランでビュッフェの昼食をとり、周辺を散策して錦秋の

老人ク、敦賀へ



秋を満喫しました。帰りに道の駅(びわ湖大橋コメプラザ)に寄り、新鮮な野菜を購入して、口々に「良かった」「楽しかった」と語り合いながら岐路に着きました。



立命ヨーヨーサークル招く

若草・岡本西子ども会(田邊浩会長)は11月19日、志津南市民センターで立命館大学のヨーヨーサークル(トリックルーム)の方を招き秋のイベントを開催しました。小学生29人が集まり、トリックルームのパフォーマンス



その後の体験コーナーでは子どもたちも熱心に学生たちの指導を受けました。短い時間で技を身につけ、夢中になって練習しました。最後に習得した練習の成果を班ごとに発表しました。個性的なパフォーマンスになり、有意義な時間を過ごしました。貴重な体験ができ、子どもたちもとても喜んでいました。

老人クラブ連合会(鈴木明会長)は10月31日、バス旅行で敦賀の気比の松原他を訪れました。参加者は38人、会員以外の方も参加し、昨年より大勢の方が楽しみました。バス旅行の楽しみは、昼食と買い物。昼食は「まるさん屋」で刺身付きの御膳、これは好評でした。買い物は敦賀の「日本海さかなセンター」、帰途、マキノのメタセコイヤ街道経由で安曇川の道の駅にも寄りました。来年も多くの方のご参加をお待ちしています。

志津南小 創立30周年記念音楽発表会



志津南小学校は11月16日の2・3校時、体育館で音楽発表会を行いました。写真。

どの学年もそれぞれに斉唱・合唱と合奏の素晴らしい音色が響き渡る感動の発表会でした。

また、開校30周年子育て講演会の講師として来ていただいたアイリッシュハーブ奏者 永山友美子さんの美し



<9>

邪気や悪霊が体内に入り込むことによって発症し、祈祷や薬によって邪気や悪霊を追い出すと病気が治るとする思想があり、それが天平・平安期に日本に伝わったそうです。

当初、薬草などのハーブ

くすりと「服」

薬がよく使う服薬、服用、内服、頓服、分服などの言葉に含まれる「服」ですが、今では服は「飲む」という意味を示していて、正式ではないようですが「薬を服(の)む」のように使われることもあります。

「服」と「薬」とは一体どういう関係があるのか、不思議に思っ調べてみました。古代中国には「病気は

い演奏を今回も聴かせていただくことができました。子どもたちからは、「こんなに綺麗な音を聴いたのは初めて。もっと聴いていたい。」「6年生の合奏が、かっこよかった。6年生になったら、やってみたい。」など

6年生 戦争体験に学ぶ



志津南小学校は11月15日、6年生が同学区在住の奥田隆三さん、林茂さん、和田基さんを迎え、戦争体験について話を聞きました。写真。

三人は戦時中の爆弾の恐ろしさやたくさんの死についてなど、辛い悲しい体験を涙ながらに語り、子ども

た用語だと思われ。数種の薬草を浸けた屠蘇酒で邪気を払って新年を祝うのも服薬に通じる習慣です。



ところで、大分市内に「服は着る薬」という、服飾デザイナーの鶴丸礼子さんが経営するお店があります。「きっちり合ったデザイン

どの感想がきかれました。子どもたちにとっても思い出深い音楽発表会になりました。

私たちは真剣に耳を傾けていました。

最後に、「皆さんはどんな希望でも叶えられる。しっかり考えて、行動してほしい」「戦争はため」と話し、多くの子が「絶対に戦争はしてはいけない」という想いを強くしました。

今回学んだことを、これから新聞などにまとめ発信するなど、戦争と平和についての考えをより一層深める学習へつなげたいと考えています。

電飾点灯に歓声



志津南やすらぎ学級は11月30日、活動前に学級生全員でクリスマスの飾り付けを行いました。写真。

地域活動功労者表彰

地域活動に永年貢献された功労者の方々が表彰されました。

垣根和子さん
滋賀県社会福祉功労者
事表彰
10月18日



おいて、民生委員児童委員を5期15年以上務めたことに
対して
杉田朋子さん
滋賀県健康推進員団体連
絡協議会会長感謝章授与
10月13日



の協議会設立30周年記念大会にお
いて、80歳以上の推進員に
対して

小林いつ子さん
草津市社会福祉功労者表
彰
10月5日



おいて、民生委員児童委員を3期9年間務めたことに
対して
喜田久子さん
滋賀県健康推進員団体連
絡協議会感謝状授与
10月13日



の協議会設立30周年記念大会にお
いて、活動歴15年以上に
対して

草津市いきいき百歳体操交流会表彰(11月8日)

◇永年継続団体表彰
志津南いきいきクラブ(奥田隆三代表)

◇高齢者表彰(90歳以上)
脇 松子さん
増田智都子さん

真ん中にちよこんと座ったサンタクロスと可愛い雪だるまが来館者を迎えてくれる手作りの大型リース、地域の皆さんのクリスマス飾り点灯の際には、歓声があ



表彰状を手にする奥田さん

を盛り上げてくれる2つのツリー。今年も皆でわいわいと楽しく飾り、装飾を一緒に華やかにしてくれる電飾点灯の際には、歓声があ

追分南町内会 文化祭でたこ焼き完売

追分南町内会は11月13日、追分町内会との共催で文化祭を開催しました。当日は汗ばむほどの気温で開会と同時にお年寄りや家族連れの人で会場は熱気に包まれました。



追分南町内会はこの焼きの模擬店を出し「写真」、追分南の住民には100円値引きで販売しました。周りにはうどんコーナーやせんざい、かやくごはん等の模擬店のライバル店が並び苦戦しながらも完売することができました。

社協フェスで「絆」もたこ焼き



草津市社会福祉協議会(清水和廣会長)の第5回ボランティアフェスティバルが10月15日、同社協(青地町)で開催され、志津南学区は、ふれあいハウス「絆」が例年通り「たこ焼き」屋台を出店しました「写真」。

会場には飲食ブースや「子ども遊び広場」、バンド「生演奏」などが並びました。熊本地震から支えあいの大切さを考える「がまたすばい!地域力」の講演会も行われ、満席で熱気が伝わってきました。ふれあいハウス「絆」の「たこ焼き」は喫茶スタッフの手慣れた火加減で、外はカリカリ、中はふんわりと焼き上がり、お客様からは「おいしいよ」と好評でした。今年もお昼過ぎには完売し、スタッフもイベントに参加して楽しめました。

例年、雨天での開催が多く天候を心配していました。今年、好天の下で無事に開催でき関係者一同ほっとしました。

避難所運営訓練に参加



草津市・笠縫東学区まち協の共催で11月20日、総合防災訓練が笠縫東小学校で行われ、志津南学区から5人が避難所運営訓練に参加しました「写真」。

訓練は家族がバラバラになったとの想定で、避難所入所の手続きをするところから始まり、家族ごとの事情を勘案して、入所が決まるなど担当者から説明がありました。

1人あたり3㎡(新聞紙6枚分)という避難所の狭さの体験や避難所で発生するエコノミー症候群への対処方法も学びました。簡易段ボールベッドの組み立てやもやい結びなどの紐のくくり方の経験も、貴重な訓練でした。

みんなの作品展開催

志津南市民センター(公民館)は、次の要領で志津南シニアのつどい事業として「みんなの作品展」を開

催いたします。学区にお住まいの概ね60歳以上の方の手作り作品を展示します。たくさんのご来場をお待ちしております。

▽開催期間 12月21日(水)~24日(土)

9時~17時

※23日は祝日の為休館。

24日は午前中のみの展示

▽場所 同市民センター会議室

▽問合せ 同市民センター 電話(563)6206

新年9日に左義長

平成29年1月9日(祝日)9時30分から11時30分までの間、若草児童遊園にて恒例の左義長を開催します。お正月のお飾りや、お札類などを焼きます。多数で参加ください。

年末年始業務

志津南市民センターは年末12月28日まで、年始は1月4日から通常業務を行います。

資源回収

□12月30日・1月15日

★若草1~5丁目町内会

□毎月第2・4日曜日

★若草6~8丁目町内会

□毎月第2・4土曜日

★かがやきの丘町内会

□毎月第1・3土曜日

★フォレストロース子供会

□毎月第2日曜日

★向山子供会

※回収品は古新聞・古雑誌・段ボール・古着

折々の記



てこの日本は地震大国であることを痛感させられる。かくいう私も、実は、2011年3月に発生した東日本大震災の被災者の一人である。私の住んでいた地域は、幸いにも、津波の被害も少なく、水や電気が数日使えなくなった程度です。

震災への備え

あったが、あの時の街の混乱は、今でも私の頭の中に残っている。灯りのない寒い部屋で過ごす時間。食糧を求めて、スーパーやコンビニに群がる人々。ガソリンスタンドでは長蛇の列。普段、何事もなく平穩に過ごしていた

先月、鳥取で発生した震度6の大きな地震。この地震によって、避難を余儀なくされた方も多数おられたとのこと、さぞ精神的な苦痛も大きかったであろうことが容易に想像できる。また、まだ記憶に新しい今年4月の熊本地震では死者が出るほどの甚大な被害が確認されるなど、改め

日々が、ここまで様変わりしてしまうのかと考えさせられた日々を今でも思いだす。そんな地震大国日本において、震災への備えが重要であることを今一度みなさんにも認識してほしい。みなさんは、水や保存食の備蓄をしておられるでしょうか?震災時の避難場所をご存知でしょうか?100年に一度しか起きない地震が自分の住んでいる地域で起こる可能性があることを改めて考えてほしいと思う。今年起きた二つの大きな地震は、震災への備えを一人ひとりが見つめ直すいい機会になればと心から願うばかりである。(M・K)